

市立旭川病院における新型コロナウイルス感染症への対応について

当院においては、新型コロナウイルス感染症の感染力の強さや周期的な感染拡大の発生可能性などから、令和 6 年度においても専用病床を維持し、下期（10 月～3 月）についても、引き続き、新型コロナを念頭に置きつつ、一般診療との両立を図ってきたところである。

一方で、現状において患者数がコロナ以前の水準に戻っていないこと、昨今の人件費増加や物価高騰に現在の診療報酬が見合っていないことなどから、財務状況が急激に悪化し、経営改善が喫緊の最重要課題となっている状況にある。

こうしたことから、新型コロナについては今後も感染拡大の可能性があるため、その対応を継続していく必要があるが、新年度から入院については一般病棟において診療を行うこととしている。

今回は、新型コロナへの令和 6 年度下期の状況を中心とした昨年度の対応及び令和 7 年度からの対応について、次のとおり報告する。

1 当院における新型コロナへの対応状況について

令和 6 年度は下期においても、上期に引き続き、外来はかかりつけ科等で診療を行い、入院診療及び職員の感染対策は 2 類相当時と同様に対応してきている。

具体的には、入院診療については陰圧装置を備えた専用病床 12 床を維持してきたほか、感染対策については 10 月中旬から入院前抗原検査を取りやめたものの、それ以外の発熱職員の出勤自粛、疑似症職員の出勤前抗原検査、入院面会の制限などに継続的に取り組んできたところである。

この間、定点把握における発生動向では、年末年始に大きく感染拡大したほかは下げ止まりの状況が続いており、院内においても職員や入院患者の感染が確認され、入院病棟における集団感染が 10 月、11 月、1 月、2 月に発生している。

集団感染発生時には、病棟での感染対策の徹底や発熱職員の出勤自粛、病棟単独

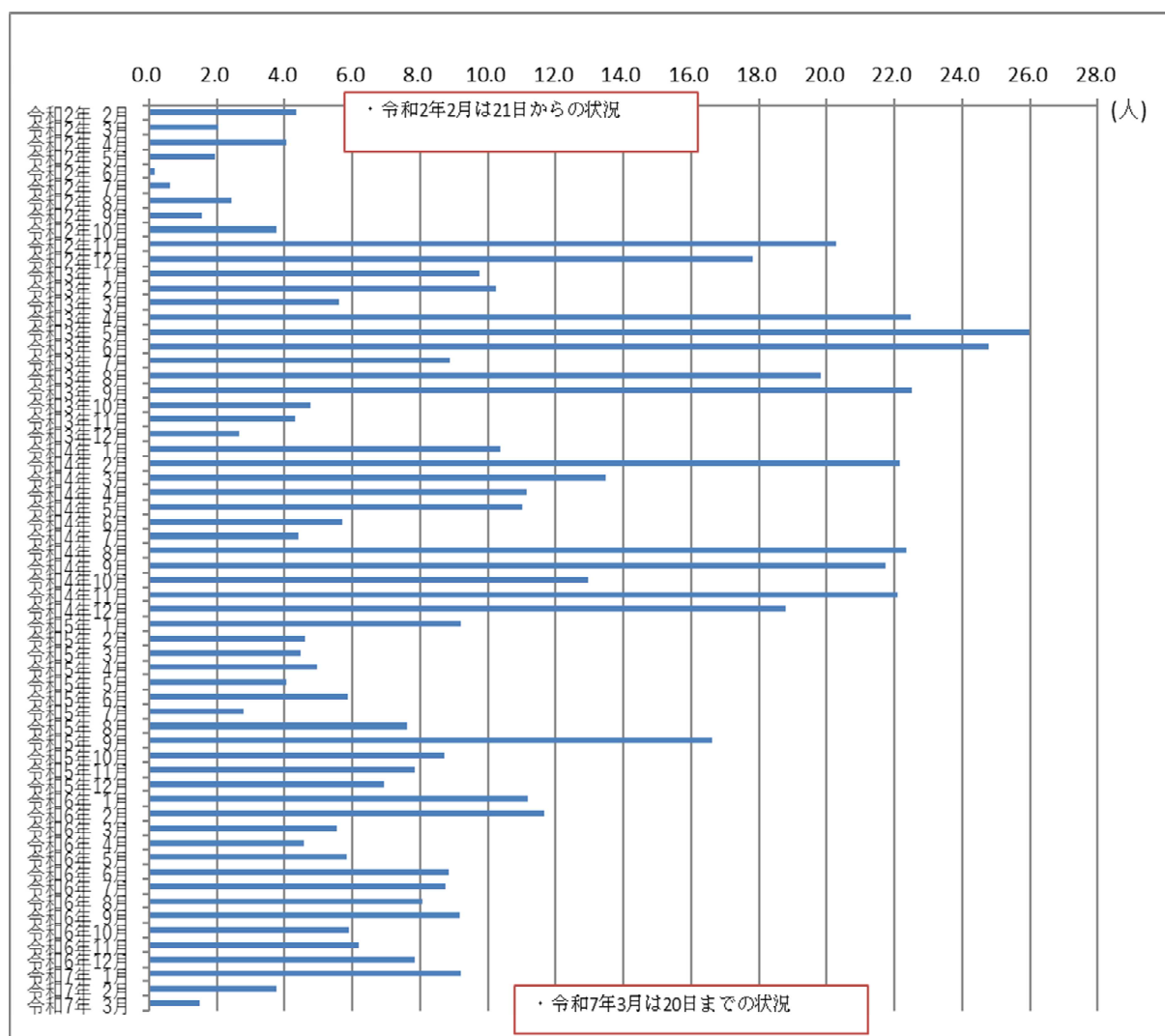
での一時的な入院受入中止などにより、さらなる感染拡大を防ぐべく細心の注意を払って診療を継続してきている。

2 感染症病棟の入院患者数について

最初にコロナ感染患者を受け入れた令和2年2月以降の1日当たりの入院患者数の推移は表1のとおりであるが、令和2年2月から今年3月までの延べ入院患者数は17,786人であり、このうち令和6年度の患者数は2,431人となっている。また、令和5年度の患者数は2,850人であり、令和6年度においては前年度よりも減少はしたものの、大きな減少には至っていない状況にある。

今後も、入院患者数が0になることは考えられず、増減を繰り返しながら一定数の受入れが想定されるところである。

【表 1：感染症病棟の入院患者数（1日当たり月平均）】



3 令和7年度からの入院患者対応について

コロナ感染患者の入院診療については、これまで専用病床を確保し、専属の看護師を配置してきたが、新型コロナの5類移行後、特に令和6年度の財務状況の悪化が著しいこと、また、4月から16年ぶりに整形外科の入院病棟が復活することなどから、今後もコロナ専用病床を確保し続けることは困難と判断し、3月をもってコロナ専用病床を閉鎖したところである。

令和7年度から、入院診療は他の疾患と同様に各診療科の一般病棟での受入れを開始しており、一般病棟においては個室を活用又は多床室を個室として使用するなど、個室管理にて患者数に応じて臨機応変に対応することとしている。

4 病院全体の患者数について

(1) 入院患者数について（表2参照）

5類感染症への移行後、令和6年2月までは右肩上がりの状況を維持し、堅調に推移してきたが、令和6年8月には前年同月を下回る状況に転じており、令和6年度1年間の延べ患者数では令和5年度と比較して580人の増加にとどまるなど、伸び悩んでいる状況となっている。

75歳以上の高齢者人口が令和12年頃まで増加すると予測されている中、高齢者の罹患率が高い疾患に対応した入院診療や搬送件数の増加が見込まれる高齢者救急の受入れなどに力を入れることが重要であり、今後においても救急患者の受入れや診療所等との連携強化による紹介患者の獲得等に継続的に取り組むとともに、高齢者に多い疾患に対応できる血管外科の新設及び整形外科の再開により、入院患者数がコロナ以前の水準に回復するよう努めていく。

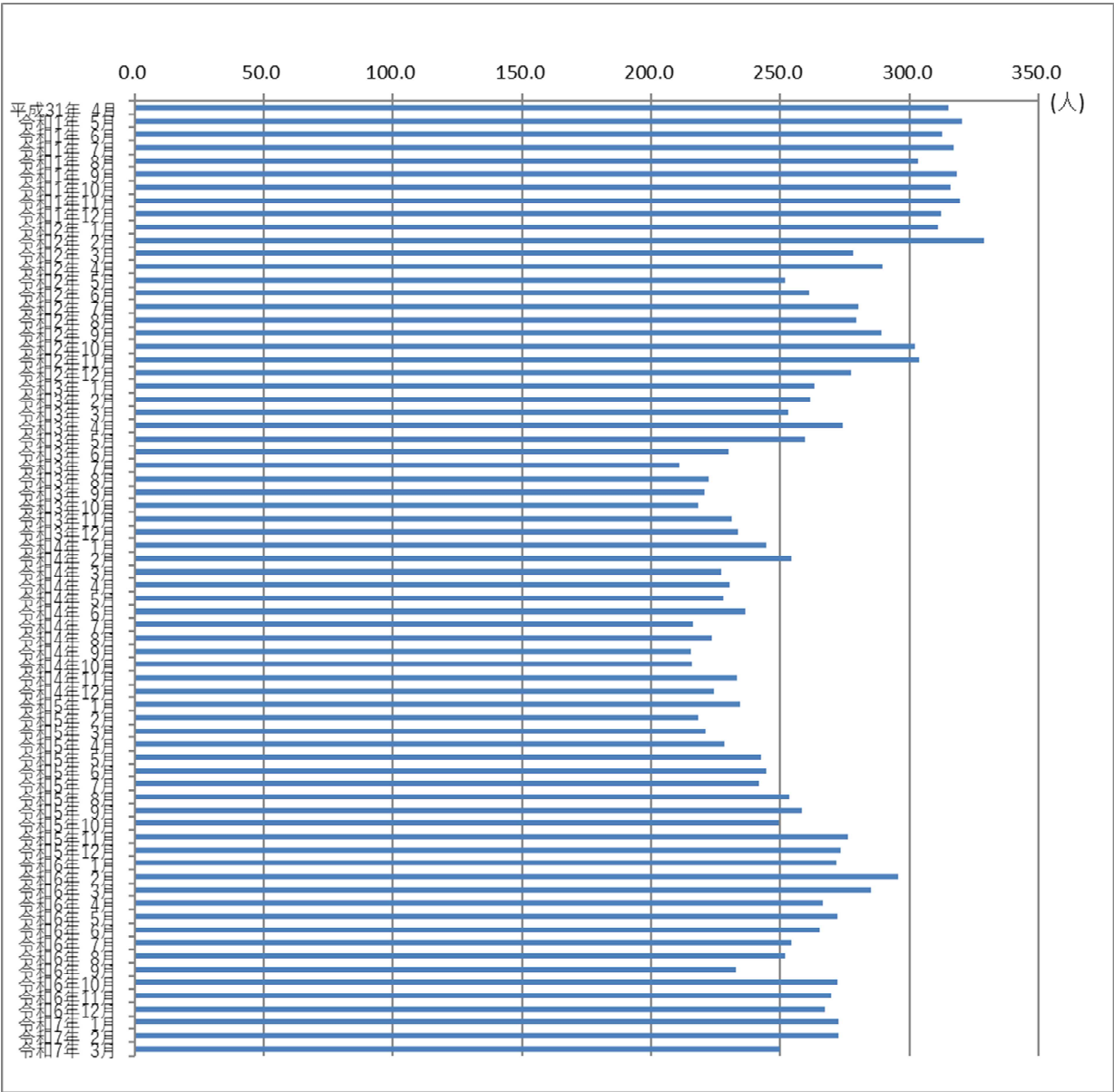
(2) 外来患者数について（表3参照）

外来患者数については、圏域の人口減に比例して既にピークを越えた減少局面にある中、延べ患者数は右肩下がり傾向にあり、令和5年度は市内基幹病院で唯一、前年度と比較して増加したものの、令和6年度では令和5年度と比較して

減少に転じたところである。

今後も減少は避けられないものと認識しているが、入院患者の増加につなげるためにも、当院が紹介受診重点医療機関に指定されていることを踏まえ、診療所等との連携強化や健診事業の充実に加え、各診療科の強みを周知する広報活動の強化などに努めていく。

【表 2：入院 1 日平均患者数】



【表 3：外来 1 日平均患者数】

